わんりぃ

211号
2016/3/1

日中文化交流市民サークル'わんりぃ'
東京都町田市能ヶ谷7-32-12　田井方
〒195-0053　TEL&FAX：042-734-5100
http://wanli-san.com/
Eメール：wanli@jcom.home.ne.jp

「幼 い 修 行 僧」

2009年10月　中国四川省カンゼ·チベット族自治州·丹巴にて　大川健三（中国四姑娘山自然保護区管理局·特別顧問）

女王谷（中国四川省丹巴県の呼称）では子沢山の家が今でも少なくなく、そんな家から子供がお寺へ修行に出されます。昔は子供と一緒にヤクやお金をお寺へ預けて以後、親との行き来は少なかったそうですが、今のお寺はお金持ちで親も自動車で行き来しますので状況が変わりました。子供は未だお母さんに甘えたい年頃ですが、健気に先輩の僧達を真似てお経を読んだり掃除したり食事の支度を手伝ったりしていました。

'わんりぃ' 2016年3月号の目次は最終ページにあります

北京雑感・その101

古観象台

有為楠（ういくす） 君代

最近、日本の気象はおかしいですね。昨年秋頃の長期予報では、この冬は暖冬だと言われていました。確かに12月から、2016年が明けた頃まではとても暖かくて、「この冬は暖房費がかからないで良い」とか、「このまま春になったら生き物が困るのではないかしら」とか、いろいろ言い交わしておりましたが、大寒の頃になると、今までの暖かさを取り消しにしようと頑張っているような厳しい寒さがやって来ました。この時の寒さは日本だけではなく、北京では歴史的な寒さ、零下17度を記録したそうです。

北京市の気象で“記録的”という言葉を聞いたとき、すぐに建国門の近くにある「古観象台」のことを思い浮かべました。あの古い建物で記録したものに匹敵する寒さか、と思いましたが、これは違いました。この「古観象台」は現存する世界最古の気象台跡で、建設は明代ですが、観測の対象は天体で、時刻や暦を知るための観測を行っていました。明代には、気温等の記録はありませんでしたからね。

そもそも、気象台を中国で最初に設置したのは元王朝でした。元朝はイスラム天文学を取り入れて、「授時暦」を採用しましたが、続く明朝もそのままイスラム暦を採用し、イスラム教徒の研究者を重用したのでした。1281年から採用されている「授時暦」は、300年遅れてローマ法王が制定したグレゴリオ暦と比べても、1年の長さはほとんど変わらない位確度の高いものでした。しかし、日蝕などの予測に関しては、グレゴリオ暦を基にしたキリスト教暦の方が正確でした。それでも、明の皇帝は、改暦すると朝廷に不吉な影が射すとして、暦の改定をせず、却って民間の暦の研究を禁止してしまいました。このせいで、後世、中国の天文学の発展が大幅に遅れたと言われています。

明朝は、民間には禁止しましたが、朝廷内部で天体の観測・暦の研究を続けるため、元代に設置した観測機器を南京に持ち去りました。従って、古観象台は場所こそ明代のままですが、機器は清代になってから設置されたものです。

清朝初期の摂政ドルゴンは、ドイツ人宣教師・アダム・シャールの知識を信頼してキリスト教暦を採用し、天文観測の専門機関・欽天監（きんてんかん）を設けて彼を最高責任者に任命しました。しかし、キリスト教に反対する勢力が、政治家の反朝廷勢力と組んで、イスラム暦の復権を画策し、彼を解任して牢屋に入れ、死刑を宣告しました。ところが、1665年1月16日に起きた日蝕の予測で、キリスト教暦の正しいことが証明され、彼は死刑を免れて釈放され、再びキリスト教暦が採用されることになりました。アダム・シャールは間もなく亡くなりましたが、彼の釈放を求めて、キリスト教暦の知識を駆使して、この日蝕を予測したフランス人宣教師フェルピーストが、新しく「古観象台」の責任者になり、キリスト教暦の採用に反対した楊光先という人は失脚しました。この事件を「暦獄」と呼ぶのだそうです。

「古観象台」はレンガ造りの小さな建物の屋上に、金属でできた観測機器が並んでいるだけの殺風景な場所ですが、こんなところにも新旧勢力の争いがあったと知ると、何か血の通ったものに感じられます。因みに中国が正式にグレゴリオ暦を取り入れるのは、中華民国となった1912年以後のことです。

昔の国家は祭祀国家だと言われます。そして、その基本となるのは「暦」なのだそうです。毎晩夜空を観察することで、小さな事実を積み重ね、長い間の経験からその意味を知る知恵が出て来るのでしょう。望遠鏡はなくとも、眺めるだけの観測でも、知識は得られるものなのですね。中国の最古の王朝は、現時点で確認できる限り、殷だと言われます。狩りや戦争に際し、獣骨や亀甲を火にかざして、出来た亀裂で吉凶を占ったそうですがが、若しかしたら、亀裂を読み解く傍証としての知識を、夜空の観察で得ていたのかもしれませんね。あ、これはちょっと深読みしすぎでしょうか？

Lún yǔ piàn duàn 论语片断 『論語』あれこれ 14

聞一以知十

Wén yī yǐ zhī shí

一を聞いて十を知る

桜美林大学名誉教授／孔子学院講師 植田渥雄

孔子は顔回のことを次のように評しています。「回也，其心三月不违仁。其余，则日月至焉而已矣！(Huí yě, qí xīn sān yuè bù wéi rén。Qí yú, zé rì yuè zhì yān ér yǐ yǐ!)」(回や、其の心三月仁に違わず。其の余は、則ち日月に至るのみ)〈雍也第六〉。顔回は、三カ月にわたって仁の心に違うことがなかった。その他の連中は、一日か、せいぜい一カ月持てばいい方だ、と。

ここで言う「三月」とは長期間、「日月」とは短期間という意味合いです。「仁」とは人間らしい心の在り方を表わす言葉です。人間である以上、人間らしい心を持つこと自体は決して難しいことではない。孔子はまた、「仁遠乎哉！我欲仁，斯仁至矣(Rén yuǎn hū zāi!・Wǒ yù rén, sī rén zhì yǐ)」(仁遠からんや。我仁を欲すれば、斯に仁至る)〈述而第七〉とも言っています。

「仁」とは身近にあるもので、望みさえすれば、誰でも手に入れることができる。要は望むかどうかということです。しかしその心を持続することは容易でない。それができるのは、数ある弟子の中でも只一人、顔回だけだ。これが顔回に対する孔子の、極めつけの評価です。

ある時、孔子は弟子の子貢に次のように問いかけました。「女与回也孰愈？(Rǔ yǔ Huí yě shú yù?)」(女と回やと孰れか愈れる)〈公冶長第五〉。君と顔回と比べたら、どちらが優れているかね、と。

孔子は時として弟子たちに、こういうエゲツない質問をすることがあります。もちろん、緊密な師弟関係だからこそできることです。また子貢は、孔子の弟子の中では自他ともに許す、最も頭の切れる雄弁家です。その雄弁家の子貢がどう反応するか。それを試したかったのかもしれません。孔子の言葉からは、少々茶目っ気さえ感じられます。

子貢は答えました。「賜也何敢望回！(Cì yě hé gǎn wàng huí!)」(賜や何ぞ敢て回を望まん)。私は顔回の足もとにも及びません、と。賜とは子貢の本名です。子貢はさらに続けます。「回也聞一以知十。賜也聞一以知二(Huí yě wén yī yǐ zhī shí。Cì yě wén yī yǐ zhī èr)」(回や一を聞いて以て十を知る。賜や一を聞いて以て二を知る)。顔回は一を聞いて十を知ることができます。私はせいぜい一を聞いて二を知る程度です、と。

それを聞いて孔子は次のように言います。「弗如也！吾与女弗如也(Fú rú yě! Wú yǔ rǔ fú rú yě)」(如かざるなり。吾と女と如かざるなり)。顔回にはかなわないよ、私も君もどちらもかなわないよ、と。

これを見ても、顔回は孔子にとって格別の存在であったことがわかります。しかし、孔子が子貢に言いたかったのはただそれだけでしょうか。一を聞いて十を知るという評価の仕方は、いかにも子貢らしく、間違っているわけではないが、いささか知に偏っています。しかも自分を引き合いに出して「賜や一を聞いて以て二を知る」と評したのは、謙遜からとはいえ余計なことでした。孔子がそのことにある種の違和感を抱いたとしても不思議ではありません。

顔回の偉さはそんなものではない。子貢よ、君はまだ何もわかっていないな。孔子が敢えて自分を引き合いに出してまで、子貢にそれとなく伝えたかったのは、そういうことだと思います。ここにも愛弟子に対する、孔子の細やかな言葉の配慮が見られます。

（わんりぃ「中国語で読む漢詩の会」講師）

※原文引用は簡体字、訓読は日本常用漢字で表記しています。
文中の「女」は「汝」の異体字です。読み方も「汝」と同じです。

怪異シリーズ（51） ケチな黄生

hé yuányuán
何媛媛

昔、ある村に黄生という書生がいました。良い家柄の青年で、幼い頃から読書が大好きでした。長じて才気煥発な若者になり、高い志を持つようになりました。村の近くに寺があり、黄生は、将来出世できるようにと願って、度々その寺へ参拝に行ったので、寺の住職と親しい仲になりました。

ある年、その寺の住職が諸国行脚に出かけることになりました。出発に際して、黄生に

「是非頑張って科挙に合格し、早く出世するように」

と言って村を離れました。その後、黄生は何回も科挙の試験を受けましたが、いつも結果は不合格でした。十年という歳月があっという間に過ぎ、住職は行脚の旅を済ませて帰ってきました。そして黄生がまだ村に残っていると知って、吃驚し、

「君ほどの才能と能力があれば、とっくに試験に合格し、役人として出世しているに違いないと思っていたが、今も無位無官のままだったとは信じられない。君が福運に恵まれるように人間の運命を司る冥途の王に頼んで見ようか」

黄生が

「是非お願いします」

と答えると、住職は

「しかし、なにがしかの礼金が必要だが用意できるかの？」

と黄生に訊ねました。

「ではどのぐらい用意すればよいでしょう」

「銭10貫[1]ほどを用意すれば何とかなるだろう」

黄生が難色を示しました。

「それは無理です」

「10貫が無理なら、その半額を何とか用意して欲しい。不足分は私が立て替えてあげよう」

そして、3日後に会う約束をしました。

黄生は手許にあるお金をかき集めましたがそれだけでは足りないので、身の回りの物を質入れたりしてなんとか5貫を調達しました。3日後、住職も約束した通り5貫の銭を持ってきて、黄生に手渡し、冥途の王に渡す方法を教えました。

満柏　画

黄生の家には古い井戸がありました。この井戸はとても深く、一度も枯れたことなく、昔から黄生の家ではこの井戸の水をずっと使ってきました。年寄りの話では、この井戸は河と海に通じており、霊験あらたかな井戸として伝えられているとのことでした。

「この10貫の銭を一つに纏めて布に包み、井戸の縁に置き、私が寺に戻った頃合いを見計らって、銭を井戸の中に突き落としなさい。しばらく待つと銭が一枚が浮かび上がる。それを丁寧に拝み、試験に合格して出世できるように心を込めて願いなさい」

住職はそう言うと寺に帰って行きました。

住職はいったい何の術を使っているのでしょうか。黄生にはさっぱり分かりません。でも、10貫という銭を井戸に投げ捨てるなどは、勿体ないではありませんか。本当に効果があるかどうかも確信もてません。考えれば考えるほど住職のいう事は信じ

難いように思われ、結局、その銭のうちの９貫は投げ込まず隠して、１貫だけを井戸に投げ込みました。

しばらくすると、井戸の水に大きな泡が浮かび上がり、がちゃんがちゃんという金属が触れ合う音がし、車輪ほどの大きな銭が現れました。黄生は大変吃驚しました。とりあえず頭を下げ両手を挙げて拝みました。そして黄生は確かにこの井戸には霊験があると信じ、懐からさらに４千銭を取り出し井戸に投げ込みました。しかし、大きな銭が邪魔になって、後から投げ込んだ銭は沈むことができません。

夕方になって住職がやってきました。

「どうして銭を全部投げ込まなかったのか」

と言って黄生を責めました。

「いいえ、全部投げ込みました」

と黄生は嘘を言うと、住職は

「いい加減なこと言うのではない。冥途の使者は１貫だけを持っていったよ」

黄生は仕方なく本当のことを白状しました。住職は嘆いて言いました。

「ケチなものは大器になれないのだ。本来、君の運命は進士[2)]になるはずだが、こんな馬鹿なことをするようでは、貢生[3)]でおしまいになるだろう。なんとも残念なことじゃ」

黄生は大いに後悔し、もう一度祈りを捧げ直してはいかがでしょうかと住職に頼みましたが、住職は首を横に振って去って行きました。　黄生が井戸を覗いてみると、あの大きな銭はまだ浮いています。そこで縄でつりあげようとしますと、その途端、銭は沈んでしまいました。

その年、黄生は地方の試験に合格しただけで、結局、住職が言う通り、中央での試験は不合格でした。地方の試験に合格した人は、官僚養成学校に進学する貢生という資格を得るだけですので、役人として出世するには中央での試験にも合格しなければなりません。

冥界でもお金を払えば、試験の結果に手を加えてもらえるのでしょうか。10貫で進士に合格できるとすれば少々安すぎるように思えます。しかし、貢生では合格したと言っても、進士になるまで、まだまだ沢山の試験に合格しないと出世できません。「１貫では高すぎる」と村の人々は言い合いました。

（終）

■注

1）**銭10貫**：宋の時代、千個の銅銭を紐で繋がって１貫と言う。１貫では約１両の銀に当たる。

2）**進士**：中央試験に合格した人、高級官吏になる。

3）**貢生**：地方試験に合格して官僚養成学校に選抜される人。

中国の笑い話 27（「365夜笑話」より）

翻訳：有為楠君代

第81話：猫の名前

婷婷の父親が、子猫を連れて帰って、婷婷にくれた。

婷婷は嬉しくて、猫の名前を何にしようかと長い間あれこれ考えて、“天”と言う名前にした。その名前が自慢で、友達の明明に話した。

「この猫、“天”っていうのよ。“天”は、高くて大きくて、素敵な名前でしょ！」

すると明明は

「天ですって？　天は雲が出て来たら、見えなくなってしまうわ！」

婷婷は不服そうに言った。

「じゃあ、“風”と言う名前にするわ。雲を吹き飛ばすでしょ」

「でも、風は、壁があると跳ね返されるわ。名前は“壁”にしたら？」

「駄目よ！　壁はねずみにかじられるわ。名前はやっぱり“猫”にしよう。ねずみが怖がるから」

【‘わんりぃ’の原稿を募集しています】

‘わんりぃ’は、２月と８月を除く毎月発行の当会の会報です。主として、会員と会の関係者の皆さんの原稿でまとめられています。海外旅行で体験された楽しい話、アジア各地の情報やアジア各地で見聞した面白い話などを気軽にお寄せ下さい。又‘わんりぃ’の活動についてのご希望やご意見及び‘わんりぃ’に掲載の記事などについても、簡単なご感想をお寄せいただければと存じます。

日中文化交流市民サークル‘わんりぃ’

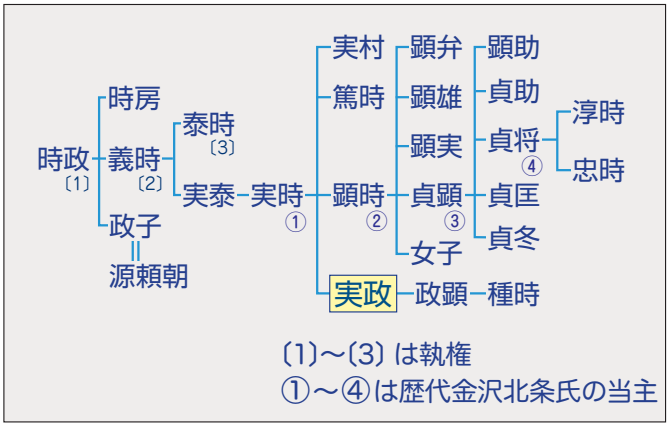
元寇と鷹島（その5）

寺西 俊英

弘安の役について主として元軍の視点で見てきたが、迎え撃つ日本側の態勢は如何であったのであろうか。北条時宗は、やはり現地に出向くことなく鎌倉で戦況を見守った。代わりに現地総司令官として九州に乗り込んだのは「北条実政（1249年～ 1302年）」という名の武将である。この武将について紙面を割きたい。

鎌倉時代の北条氏は「北条時政」が初代執権となった。時政の子の「政子」が源頼朝の妻となったのはご承知の通りであるが、政子は尼将軍として権勢をふるい、幕府の実権は北条氏に移っていくことになる。第３代執権「泰時」の弟の「実泰」の子、「北条実時（1224年～ 1276年）」が今の横浜市金沢区にある金沢山の山裾の別荘地内に1258年に称名寺を建立した。そして1275年に金沢文庫をつくり、ここ金沢が鎌倉文化の中心となって天下の知識人がこの地に集まった。実時から始まる４代は北条一門の中でも金沢北条氏と呼ばれ栄華を誇った。実政はこの北条実時の息子である。北条氏の家系図の一部を載せたのでご参照いただきたい。

さて文永の役を九州の御家人の個別の奮戦でかろうじて乗り切った幕府は、その反省から組織的かつ抜本的な防衛策を講じようとした。時宗は九州の御家人（大友氏、少弐氏、島津氏など）に対して抑えが効く人物として実政を派遣することとした。彼は29歳の時「異国征代大将軍」に任ぜられ軍勢を率いて九州に下向した。30歳の時、父実時の死により豊前（福岡県東部から大分県北部地方）の守護職を継ぎ53歳で亡くなるまで後半生を鎮西（九州）で過ごすことになった。弘安の役では御家人達をよく統率し元軍の撃退に活躍した。



北条氏家系図（抜粋）　筆者編

実政の時代が鎌倉幕府・鎮西探題の最盛期と言われるから豪胆な人物であったと思われる。彼は亡くなるまで鎮西においてよくその職責を全うしたとされているので彼の地に葬られているのかとネットで調べたがよくわからない。ネットでは実政が北条時宗を供養するため1284年に福岡市に称名寺を建立したと出ていた。その寺に埋葬されているかもしれないと思い電話をして聞いてみた。すると「寺の名前は同じですが、称名寺という名の寺は日本にはいくつもあります。金沢文庫のそばの称名寺とは直接の関係はありません。また実政はここには葬ってなく、鎌倉にある北条一族の墓地ではないでしょうか」との答えであった。ついでに実政の人物像について尋ねたが「わかりません」と言われた。

実は昨年11月下旬、金沢文庫近くに住まわれている先輩のＨさんと称名寺と金沢文庫を訪ねた。私はこの称名寺が好きで何度も行ったことがある。本

横浜市の称名寺。太鼓橋の向こうに本堂を望む。
（筆者撮影）

堂の前に大きな池が拡がっており、その中央を二つの橋により山門から本堂まで一直線に渡れるようになっている。そのうちの一つは太鼓橋で、橋の頂上から眺める庭園の美しさは格別である。ちょうど紅葉のシーズンで黄色く色づいたイチョウの大木が水面に投影されていた。金沢文庫はその昔は火災にあったりしたことからそばの小さな山をくり抜いた20メートルくらいの隧道の向こうにあったそうだ。今はその地に近代的な「県立金沢文庫」が建てられている。鎌倉文化の香りが伺えるこの辺りにまだ行かれたことのない方はぜひ一度行かれることをお勧めしたい。

福岡県福岡市東区箱崎の筥崎宮（はこさきぐう）にある「元寇」の歌碑　（ウィキペディアから）

また博多に亀山天皇の銅像を建てることになり、明治27年に竣工した。私はまだ見たことがないが、銅像の銘板に時の参謀総長の有栖川宮熾仁親王御筆にかかる、敵国降伏が記されているとのことである。どなたかご存知の方がおられれば教えてほしい。亀山天皇は12月号で紹介したが第90代の天皇で、弘安の役の時は上皇であった方である。

（続く）

◆参考文献

松本忠親著：「私と元寇」(2012)，私家版．
松本忠親著：「日本漢詩に詠まれた元寇」(2013)，私家版．
その他インターネットにて収集．

これまで文永の役、弘安の役と見てきた。現代の日本人の多くは、明治以前の最大の国難であったこの役について深く関心を持つことなく、国難としての実感が薄いのではなかろうか。私も鷹島に住んだことのある友人Mさんがいなければ同じような認識であったと思う。

ここにMさんからいただいた元寇の資料がある。

その中で「元寇」という軍歌が紹介されている。この軍歌は明治25年頃、陸軍軍楽隊の楽手であった永井建子（ながいけんし）氏が作詞・作曲されたものである。永井氏は軍楽隊の第6代隊長となった人であるが、氏が28歳の時の詞である。明治25年といえば、日清両国関係が悪化した時で日清戦争（1894年・明治27年）勃発の2年前だ。したがって国民の士気を鼓舞するため作られたようであるが、明治の人たちが元寇をどのように受け止めていたのかが伺われ興味深い。

この歌が発表されるや熱狂的な歓迎を受けた。大正天皇も特に気に入られたようであるが、日清戦争が起こるや従軍の将士ことごとくこの歌を歌いつつ戦ったそうだ。

‘わんりぃ’は、毎年4月から新年度になります。ご継続をよろしくお願いします。尚、新年度の会費の納入は、3月一杯にお願いできれば有難いです。また、新入会を歓迎します。

年会費：1500円　入会金なし

郵便局振替口座：0180-5-134011　‘わんりぃ’

‘わんりぃ’の名は、‘万里’の中国読みから付けられました。文化は万里につながるの想いからです。

主としてアジア各地から日本に見えている方々と協力し、講座、研究会、鑑賞会、展覧会等を開催し文化的交流を通して国や民族を超えた友好を深めたいと願っています。

①年10回（2月・8月を除く）おたよりをお送りします。

②‘わんりぃ’の活動の全てに参加できます。

問合せ：042-734-5100（事務局）

◆インターネット会員の制度もあります。アドレスを頂いた方に、毎月、カラーの美しい‘わんりぃ’をPDFファイルでお送りします。こちらは無料です。

◆町田市各所でご自由に取って頂けます。上記へお問い合わせください。

使用済み古切手と書き損じの葉書でご支援を！

日本スリランカ文化交流協会では、スリランカへの教育支援の為、古切手と書き損じ葉書を集めています。古切手は周囲を1cmほどを残して切り取り、おついでの折に田井にお渡し下さい。

混迷の時代を拓くザメンホフの人類人主義「私は人類の一員だ！」（I）

――今こそ、国境を超えた人々の真の連帯、民衆的なつながりを――

ジャーナリスト、方正友好交流の会事務局長、著書『ある華僑の戦後日中関係史』
大類 善啓（おおるい よしひろ）

➢はじめに

最近の世界を見ますと、第三次世界大戦はすでに実質的に進行しているのかもしれません。その萌芽は例えば“イスラム国”の自爆テロに誘発された西欧各国の排外的なナショナリズムの台頭です。その象徴が、フランス極右政党の進出でしょう。ヴォルテールを代表とするフランスの知性、寛容なる精神はどこへ行ってしまったのか、と思います。

一方ではアメリカ大統領候補トランプが「イスラム教徒はアメリカに入国させるな」と堂々と主張して多くの支持者を集めています。第二次大戦の独仏の激しい戦いの教訓の上に成立したEUも、イギリスが離脱するか国民投票に問う、という危機的な状況が生まれています。

ロシアはクリミヤを強奪し、ウクライナの西部では「ロシア人よ、出ていけ」という声が広がり、中東ではサウディアラビアとイラン両大国の断交、アジアではフィリピン海域の島々を巡る中国とアメリカのパワーゲームの応酬、そして北朝鮮の“水爆実験”など、世界のあらゆる地域で緊張した状況が続いています。

このような世界の状況を見るにつけて思うのは、一国単位で考える時代、一国単位で解決できるという時代はすでに終わっているにもかかわらず、国際的に解決していこうという考えが進んでいないように思われます。現在の国際連合もほとんど大国のエゴイズムを抑止することができていません。というより、大国の既得権益の上に成立している国際連合に、そもそも世界平和を希求する方が間違っているのかもしれません。

➢生きていた中国の国際主義的精神

「死の商人」たちの跳梁を阻止する可能性、その光と思わせたものが社会主義という思想でした。カール・マルクスの根底を支えたその思想こそが国際主義であり、世界革命という思想です。一国で革命が成就してもその発展はいびつな形になります。レーニンが唱えた世界革命の光によってマルクスの思想は開花すると思われていましたがレーニン死後の後継争いでトロッキーが破れ、〈一国社会主義論〉のスターリンが勝利し歴史の歩みは後退しました。

しかし、1949年に成立した中華人民共和国は、新たな民衆の力と誇りを世界に呼び戻しました。1963年、残留した日本婦人の願いがあったとはいえ、ハルピン市郊外の方正県に建立された日本人公墓はその輝かしい中国の国際主義の生きた存在証明です。

ところが残念ながら、その国際主義的な精神も今は彼方に押しやられ、〈中華の夢〉なる中国ナショナリズムが台頭して、〈愛国主義〉が大手を振るっています。

村田忠禧・横浜国立大学名誉教授の研究によれば、ここ十数年に亘って人民日報から「国際主義」という言葉が消え、それに代わって「愛国主義」という言葉が頻出するようになったといいます。

かつて日本人でありながら八路軍に参加した飯白栄助さんは、若い中国青年から「小日本」「日本鬼子」とからかわれて喧嘩をした際、仲裁に入った幹部は中国青年を叱った後、飯白さんに「お前も民族意識が強すぎる。もっと国際主義の精神を持て」と言われました。それほど末端の中国共産党幹部にも国際主義的精神は生きていたのです。しかし今は〈中華の夢〉、愛国主義が蔓延しているように思われます。中国共産党の輝ける国際主義的な精神は今、死に瀕しているといえます。これも国家が持つ宿命なのでしょうか。

国際主義も畢竟、国家の存在を前提としています。国家の要件としては領土、国民、主権という３つが満たされて初めて国家として認められます。そして国家間の争いとして挙げられるその筆頭こそ領土問題です。どのような理想主義的精神で建国さ

れた国家でも常に領土問題によって戦争が引き起こされます。

➢イスラエル建国にみる領土問題

1947年、放浪の運命を余儀なくされていたユダヤ人たちは念願の国家をパレスチナの地に建国しました。イスラエルです。しかしそれは、パレスチナにいた多くの人々を放逐することによって強権的に成立し、そのため建国直後に中東戦争が勃発しました。過去何度もあった中東戦争はアメリカ政府の強力な後押しによってイスラエルは勝利し続け、領土を一方的に広げました。それによって今も周辺のアラブ諸国との争いに神経をすり減らしているのが現状です。

このイスラエル建国のバックボーンとなった思想がシオニズムと呼ばれるものです。〈故郷のシオンの丘に帰ろう〉と、離散したユダヤ人たちがパレスチナに帰り、イスラエル建国が成立しました。国際共通語を創造したユダヤ人のザメンホフも当初はシオニズムに共感していました。しかし、すぐに「シオニズムはユダヤ民族主義に他ならず、周辺のパレスチナの人々を追いやるだろう、これは離散するユダヤ人たちの真の解決にならない」とシオニズムから手を引きました。〈国家無くして領土なし、領土無くして国家なし〉といわれます。しかし、領土は常に近隣諸国にとって争いの種でした。その争いの種を封じるために軍隊を持ち、武器によってかろうじて争いを封印しているのが現実です。

➢「この世の大地は天からの借り物である」

果たして、この世の領土とは何なのでしょうか。戦前の強権的な天皇制国家から徹底的に弾圧を受け、戦争中の6年近くを牢獄にいた大本（教）の教祖、出口王仁三郎は「この世の大地は天からの借り物である」と喝破しました。「日本という領土も神様から一時的に借り受けているものである」。そう考えるなら、「我が国固有の領土」なる発想などは出てこないはずと考えられます。

そもそも日本という名前がこの世に登場するのは、歴史家・網野善彦先生によれば、8世紀初頭に勢力を振るっていた一族が、本州の西南部や九州の北部を巡って領土の支配を確立した時のようです。その最高権力者が「天の王」を意味する天皇という称号を与えられました。「日本」とは、ある特定の一族によって支配された政治的な単位だったといえます。

その後、歴史を経た幕藩体制では、薩摩や長州、肥後などの藩によって人々は考え方まで支配されていました。今でも、「日本は明治維新以来、長州人に支配されている」などと言う人がいたりします。確かに戦前はもとより、戦後でも、岸信介、宮本顕治（日本共産党の指導者だった、戦前長い獄中生活を強いられていました）など左右両翼に亘る政治指導者には長州人が目立ちます。

もしかしたら今でも地元の人々は、「長州人の末裔である」とか「我は薩摩隼人である」などと言って内心、近隣の他地域の人々を上からの目線で見て、その差異を誇らしげに思っているのかもしれません。少なくとも、〈日本〉なる観念は、ほんの100有余年前の人々の心の中にはありませんでした。

➢「国」や「民族」という発想を超えよう

国際共通語であるエスペラントを創造したザメンホフは、国や民族ではなく、人類という発想を持ち、個人を出発点として考えていました。しかしザメンホフはなぜ国際共通語なるものを創ろうと考えたのでしょうか。

ルドヴィーコ・ラザーロ・ザメンホフは1859年、現在はポーランドにあるヴィャリストクという町にユダヤ人として生まれました。当時のヴィャリストクはロシア帝国の支配下にあったリトアニアの地でした。当時のヴィャリストクでは、ユダヤ人（66%）、ポーランド人（18%）ロシア人（8%）、ドイツ人（6%）、ウクライナ人（2%）という人口構成（田中克彦著『エスペラント―異端の言語』（岩波新書）であり、町の市場や通りに出れば、言葉の違いで誤解が生じ、実に些細なことで人々は罵り合っていました。

こういう状況を見ていたザメンホフは人々が共通語を使うことによって争いを止めようと考えたのです。

（次号に続く）

東西文明の比較(2)

陽光新聞社・顧問　塩澤宏宣

前回は、西と東に同時期に文明が生まれたことを述べました。ローマと中国(秦)です。今回は、視点を変えて「文明とは何か」を考え、さらに中国文明を記してみたいと思います。

「文明とは」、その性質

人類の歴史は文明の歴史である。文明の起源や出現、興隆、相互作用、成功、衰退、滅亡が、卓越した歴史家などにより詳しく研究されてきた。それらの中心的主張はほぼ一致している。文明という考え方は「未開状態」の対極にあるものとして展開された。世界にはいくつもの文明があり、それぞれ独自のやり方で文明化している。人類の歴史における主要な文明は、世界の主要な宗教と密接な関係を持っている。民族性と言語が共通していても宗教が違えば殺戮も起こる。

文明は最も広い文化的なまとまりである。村落や地域、民族集団、国籍、宗教集団などは全て、さまざまなレベルの異質性を含みながら、固有の文化を持っている。文明の輪郭を定めているのは、言語、歴史、宗教、生活習慣、社会制度のような共通した客観的な要素と、人々の主観的な自己認識の両方である。文明には明確な境界もないし、初めと終わりも明確でない。

文明は紛争や衝突の時期を経て、普遍的な国家に発展し、やがて衰えて崩壊する。

世界文明といわれる総数は？

多くの学者による試算はいろいろあるが、主要な文明は12存在し、そのうち7つ(メソポタミア、エジプト、クレタ、古代ギリシャ、ローマ、ビザンティン、中央アメリカ・アンデス)はもはや存在せず、存在するのは、中国、日本、ヒンドゥ、イスラム、西欧の5つである。その概要を示すと、

- **中華文明**：紀元前2500年には2つの文明が存在した。黄河文明と長江文明、後に合体して中華文明になった。ベトナムや朝鮮を包含する。(後述)
- **日本文明**：日本を固有の文明として認識。中国文明から派生し西暦100ないし400年の時期にあらわれたとする。
- **ヒンドゥ文明**：紀元前1500年ごろからいくつかの文明が存在。前2000年以降ヒンドゥ教はいろいろな形で亜大陸文化の中心となり、宗教ばかりでなく社会制度にまで影響を与えた。インド文明の核である。
- **イスラム文明**：7世紀アラビア半島で生まれ、北アフリカ、イベリア半島、中央アジア、東南アジアへと広まった。その結果、イスラム文明の中にはアラビア、トルコ、ペルシャ、マレーなど数多くの下位文明が存在する。
- **西欧文明**：700 ～ 800年に現れたとされる。学者はヨーロッパ、北アメリカ、ラテンアメリカの3つの主要構成要素があるという。オーストラリア、ニュージーランドも含まれる。西欧文明を構成する2大要素であるヨーロッパとアメリカの相互関係は、時代とともに変化した。アメリカの土地には、自由と平等、機会(チャンス)と未来があり、ヨーロッパは抑圧と階級闘争、階層、退化の象徴であった。合衆国が世界の舞台に立つようになると、ヨーロッパとの一体感が生まれ、自らを西欧文明の覇者と名乗るようになる。

ドーソン[注)]はいう。「偉大な宗教は偉大な文明を支える基礎である」。五つの「世界的宗教」のうち4つ(キリスト教・イスラム教・ヒンドゥ教・儒教)は主な文明と結びついている。仏教は初期の段階で二つに分かれた。大乗仏教は中国から朝鮮、ベトナム、日本へ。小乗仏教はスリランカ、ミャンマー、タイ、ラオス、カンボジアへと。チベット、モンゴル、ブータンは大乗仏教の流れを組むラマ教を信

じる。仏教はキリスト教やイスラム教同様、発祥の地では生き延びることはできなかった。中国や日本では在来の宗教と融合した。中国の仏教は儒教・道教と、日本では神道と。

文明の「遭遇」

文明と文明の交流は遭遇による。初期の遭遇は地中海東部、南西アジア、インド北部でおきた。征服によらず文化が伝播した例は仏教の中国伝播だ。インド北部で仏教が起こって600年後のことである。

紙が中国で発明され、日本に伝わったのは7世紀、中央アジアには8世紀、北アフリカへは10世紀、スペインへは12世紀、北ヨーロッパへは13世紀である。8世紀に中国で印刷技術が発明され、11世紀に可動活字が発明されたが、ヨーロッパに伝わったのは15世紀である。

中国で9世紀に発明された火薬はアラブ地方には数百年後、ヨーロッパには14世紀に伝わったのである。

インドと中国はときどき他の民族の侵略を受けた。ムガール人・モンゴル人に支配されたことがあったが、自らの文明の内部で長期にわたり「交戦国家」の時代を経験していた。ギリシア人は同じ文明の内部で戦争し、交易することが多く、ペルシアをはじめとする非ギリシア人との交渉はずっと少なかった。

中国の多様な古代文明

1970年代、浙江省の長江流域で河姆渡遺跡が発見された。紀元前6000年ごろには稲作文明があったことが証明された。従来の中国古代文明は「黄河文明」との通説を覆すものだった。

秦嶺山脈が中国大陸を南北で分断する。北を流れる黄河流域は小麦栽培の文明。南の長江流域は稲作文明圏である。更に内モンゴル東部から遼寧西部にかけての遼河流域にも別の文化圏があった。遼河文明と呼ぶ。ナラ・クリ・カエデ・シナノキなどの温帯落葉広葉樹林帯、東日本のナラ林帯と共通する植生を持つ地域。ナラ林が産する堅果類は砕いたり煮ることで栄養価の高い食料となり、乾燥させれば貯蔵食品になった。

黄河文明

その前半を仰韶文化（紀元前5000 ～ 3000年頃）が黄河中流域で栄えた。点在する集落には200人規模のものもある。周囲を囲む環濠の中に中央広場があり、それを囲んで竪穴式住居が並ぶ。アワ・ヒエやムギ・コメも栽培されており、ブタやウシ・ヒツジ・ヤギなどを飼育され、養蚕も行われていた。彩文土器は動物、人面、幾何学模様を白・黒・赤などで彩色した祭祀用土器である。

後半を山東龍山文化（～前2000年）と呼ぶ。遺跡からは轆轤（ろくろ）を使った精緻な陶器が出土し、大量生産も行われたようだ。石包丁などの石器や骨角器、ヒスイ、後期には青銅器も出現する。大型の集落が登場し、周囲に敷地を持つ住居も出現した。農業も発展し、イネ栽培を初め、牧畜・養蚕・染織も行われていた。動物の骨を使用した占いが行われており、原始的宗教の揺籃がすでにあったと思われる。

長江文明

長江中流域の屈家嶺文化（紀元前3000 ～ 2500年ごろ）と、下流域で栄えた良渚文化（紀元前3300 ～ 2200年）の時代が最盛期である。長江流域では紀元前4000年ごろには水田が出現する。それまでは稲作でも沼地などにイネを植えるだけであったが、このころになると、畦を作り、水を張り汲水と排水ができる装置ができた。水田を持つ集落は次第に大規模化する。やがて直径300メートルもある環濠と土塁で防御した集落が見られるようになった。

紀元前3000年ごろになると、500人を超える大集落が出現。血族的集団から政治的、宗教的な結びつきをもつ集団へと移行し、首長が集団を束ねるようになる。また狩猟用の道具が大幅に改良され、武器も作られてくる。明らかに集落間の紛争・戦闘があった。土塁はいっそう高くなり、8メートルを超えるものも出現した。巨大な城郭集落の成

立である。

中国文明―「国家と民族」の関係

現在の地に「中国」と呼びうるような政治的統一体が最初にできたのは、紀元前221年の秦による統一であり、それ以前の中国は「東夷・西戒・南蛮・北狄」の諸民族や諸国、諸王朝が、洛陽を中心とする黄河中流域の盆地を巡って攻防を繰り返す中から、中国人すなわち漢民族＝華夏族が形成された。

中国人とは「夷狄」とされた諸種族が相互に接触・混合して形成された都市住民のことであり、人種としては「蛮・夷・戒・狄」の子孫というのが正しい。中国文明の脱種族的でその時々の辺境地域または種族を防御的に吸引する歴史的同化力に「中華」的なものの本質の起源があったのである。

同時期に存在したローマ帝国には、常にその中核に、種族・文化いずれにも、狭義のラテン的・イタリア的起源が一貫として鮮明に存在した。中国の場合それが、いずれの構成要素ともまったく異なる新しい形態がそのつど生み出されていた。そのたびに根本的な全面的変容が繰り返し引き起こされていた。これこそ「玉ねぎ」型中国の生成プロセスの始まりだ。

■注

ロムルス：アブラハム・コンスタンティン・ムラジャ・ドーソン（1779～1851）トルコ系アルメニア人の外交官・歴史家。世界10数か国語に通じた。特に「蒙古」の研究に強い。

詩人尹世霖（いんせりん）の童詩の世界⑳

金子總子・訳

新老师（xīn lǎo shī）

zhǎn xīn de kè běn
崭新的课本，

zhěng qí de jiào àn
整齐的教案。

xīn lǎo shī yā yī yā jī tiào de xīn
新老师压一压激跳的心，

mài jìn jiào shì de mén kǎn
迈进教室的门槛。

「lǎo——shī——hǎo！」

a duō me cuì duō me tián
啊！多么脆，多么甜。

wǒ men de tóng yīn biàn yī tuán míng wù
我们的童音变一团明雾，

méng zhù lǎo shī shēn qíng de shuāngyǎn
蒙住老师深情的双眼。

新任先生

とびきり新しい教科書
きちんと整っている授
業案
新任先生は　激しく踊る心を　落ちつけて
教室の敷居を　またいでいく

「せんせいーおはようーございます！」
あぁ！何と歯切れよく　なんと甘い
私たちの　こどもの声が
ひとかたまりの靄となり
先生の　情愛に満ちた　二つの瞳に
ぼうっとかすんでいる

私の調べた諺・慣用句47

老いたる馬は路を忘れず

三澤　統

人間は遠方の見知らぬ土地で道に迷ってしまったら、地図も何もなければ元の場所に戻ることができません。ところが動物には帰巣本能があります。昔、伝書バトは新聞のニュースを運ぶために働きました。また良く聞く話に「犬をどこか遠くへ捨てたのち、何か月もしてから家に戻って来た。」ということがあります。では、馬の場合はどうなのでしょう？ 今回のエピソードにその答がのっています。

この諺を辞書で調べてみるとそれぞれ次のように載っています。

▲ 小学館　デジタル大辞泉：

「**老いたる馬は路を忘れず**　道に迷ったときは、老馬を放ってそのあとをついて行けば道に出るものだ。経験を積んだ者は、行うべき道を誤らないことのたとえ。老馬の智。老いたる馬は路を知る」

▲ 小学館　中日辞典：

「**老马识途** ǎomǎshítú 老馬は道を知る；経験を積んだ人はその道に詳しい」

この成語の出自は〈韓非子[1]・説林上〉です。

紀元前663年、斉の桓公は燕国の要求に応えて燕国に侵入してくる山賊を討つべく出兵しました。宰相の管仲[2]と大夫の隰明(官名)が同行しました。斉軍が出発したのは春でしたが、凱旋した時には季節はもう冬になっていて、草木の様子はすっかり変わってしまっていました。そのため大軍は高い山や険しい峰の続く山の中で右往左往したのですが、とうとう道に迷ってしまいました。

大勢で手分けして道を探したのですが、結局ここからどうやって山谷を抜け出られるか分かりませんでした。時間が経つにつれて軍隊の食料補給に問題が出始め、事態は急を要する状況になってきました。このままだと大軍はここで死んでしまうかも知れません。管仲はいろいろ思案した後に

満柏　画

終に一つの考えが浮かびました。それは「犬は家から遠く離れたところからでも家へ帰ってくる能力を持っている。ならば軍の馬、とりわけ年をとった馬も道を知る能力があるのではないか」ということでした。

そこで管仲はその考えを早速桓公に提案しました。

「大王さま、私は老いた馬には道を知る能力があると思います。馬を使って道案内をさせれば、大軍をこの山谷の出口へと導けるのではないでしょうか」

桓公は管仲の考えを試してみることに同意しました。管仲は直ちに数頭の老いた馬をえり分け、たずなを解き、馬たちを大軍の最前面に配置して、自由に歩かせました。すると本当に不思議なことに馬たちは少しもためらうことなく、一方向に向けて進みはじめたのです。大軍は馬たちに遅れずについて行き、しばらく歩いているうちに遂に山谷を抜けて斉国へ通ずる道を探し出すことができたのです。

■注記

1) **韓非子**（かんぴし）：中国戦国時代の法家である韓非の著書。内容は春秋・戦国時代の思想・社会の集大成と分析とも言えるものである。後世では、諸葛亮が幼帝劉禅の教材として韓非子を献上している。（ウィキペディアより）

2) **管仲**（かんちゅう）：中国の春秋時代における斉の政治家である。桓公に仕え、覇者に押し上げた。

鄧さんの観光ガイド用教科書から―⑨

玄 中 寺

鄧仁有

玄中寺は太原市から南へ70キロ程の交城県に位置しています。

北魏延興二年（472年）に中国仏教浄土宗の始祖である曇鸞（どんらん）によって創建されました。唐の大宗・李世民がみずから玄中寺を訪ね「石壁永寧禅寺」の名を賜ったので、永寧寺とも呼ばれています。

隋と唐の時代は道綽（どうしゃく）、善導（ぜんどう）両大師が曇鸞の浄土教義を継承しました。玄中寺は当時中国仏教の三大戒壇（かいだん）[1)2)]の一つでした。9世紀、善導大師が長安の香積寺で浄土法学[3)]を研究し、さらに広めました。この浄土法学は日本の留学僧により、中国から日本へも伝わりました。12世紀に日本天台宗の名僧源空（法然）が善導大師の教義をもって日本に浄土宗を開き、以来、曇鸞、道綽、善導の三大師を三祖師と仰ぎ、玄中寺を祖庭（総本山）としました。

浄土宗は日本で広まり、多くの宗派が出来、法然の弟子親鸞が浄土真宗を開きました。どの宗派も玄中寺を祖庭としています。このように玄中寺は中国の重要な浄土宗の寺院だけではなく、日中仏教文化の交流の架け橋にもなっています。

玄中寺は元の時代の末期に戦争で破壊され、明と清の時代に修復されました

■二祖対面

法然の善導に対する敬慕の念は非常に強いものでした。それは法然の二祖対面という次のような伝説で知る事が出来ます。

「ある日、法然が念仏を唱えている時に、突然気だるくなり、うとうとと夢見心地となりました。この時、法然の目の前に五色の瑞雲（ずいうん）[4)]が西方からたなびいて来ました。雲の上には、一人の長老が立っており、法然に向かって微笑みました。法然はこの人が高僧である事を知り、意を尽くして礼拝し、どこから来たのかと訪ねると、大師は自分が唐から来た善導で、浄土宗が日本においても始

玄中寺山門　（Googleパノラミオから）

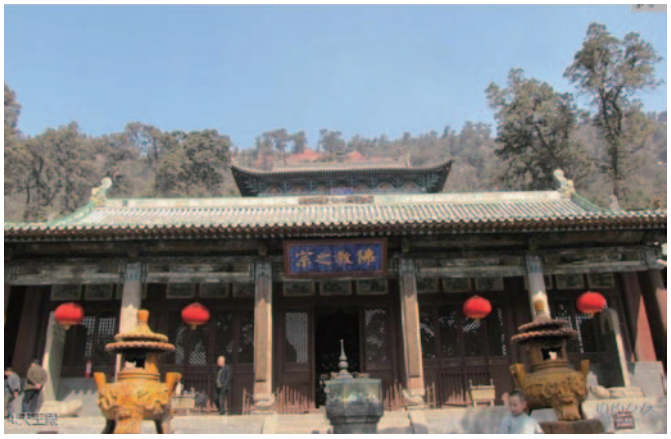
められた事を知って、わざわざ訪ねて来たと答えました。法然はこれを聞いて心に得ることがあり、善導と互いに問答を交わしました。暫くして夢が覚めましたが、善導大師の姿は依然として目の前にありました。そこで急いで絵師に来るように求め、夢の中で見た善導大師の像を描いてもらい、寺に残しました。以後、日本の浄土宗の多くの僧侶、信徒は常にこの祖師像を重視し、「二祖対面」図と名付けるとともに、尊び、後にその絵は国宝[5)]となりました。

■山門

山門は寺院の外門です。仏教によると、仏事には三つの門があると言います。三つの門とは「三解脱門」つまり、空門、無相門、無願門の三つを象徴するので三門と言ったのです。その後、山林中にたくさんのお寺が建てられたので、人々は「三門」を山の門「山門」と言うようになったのです。ある寺ではただ一か所の門しかなくても習慣上「三門」といっていますが、玄中寺の三門は正真正銘の三つの門で、中門は天王殿の正門です。

■天王殿

天王殿は明の時代の建築です。中央には腹を出した弥勒仏が端座しており、四天王がその両側に立っています。弥勒は仏教説に拠ると、仏より受



天王殿　（中国ネット「相約久久」より）

器（予言）されて、お釈迦様の後を継いで未来に仏となる菩薩と言われています。中国のお寺ではどこでも置かれていて、口を開いて笑っている弥勒像は，実は五代の頃の契此（かいし）と呼ばれた和尚の像です。日本では布袋と呼ばれ、言い伝えではこの和尚は弥勒の化身ということになっていて、人々はこの和尚の塑像を作って弥勒菩薩として供養したのです。

■石壁寺鉄弥勒像頌碑

この「石壁寺鉄弥勒像頌碑」は「高氏碑」とも呼ばれています。唐の時代の女流書道家、太原参軍房嶙の妻渤海高氏が書いたものです。この石碑に拠ると、唐の太宗李世民は北京（ほくけい）（太原）へ赴く途中、玄中寺を訪れて皇后の病気平癒を祈願したことがわかります。

■祖師殿

正面には曇鸞、道綽、善導三大師の画像が描かれてあります．両側に日本から送られた書物など

祖師殿　（中国ネット「相約久久」より）

が展示されています。 壁にある錦の旗に書いてある「日中友好世世代代」を見ると玄中寺の日中友好の物語が思い出されます。 日中戦争の時（1942年）日本の浄土真宗東本願寺派「曇鸞大師奉賛会」の会長菅原恵慶が戦争の障碍を越えて曇鸞大師の円寂1400周年行事に参加しました。帰国する時に、玄中寺の棗を東京へ持って帰り、自分の寺院に植え、その寺を棗寺[6]と改名し、玄中寺の別院としました。

石壁寺鉄弥勒像頌碑部分
（中国不詳サイトから）

■注

1）**戒壇**（かいだん）：仏教用語で、戒律を授ける（授戒）ための場所を指す。 戒壇は戒律を受けるための結界が常に整った場所であり、授戒を受けることで出家者が正式な僧尼として認められることになる。
（ウイキペディアから）

2）**三大戒壇**：中国に現存する3か所の戒壇。
- 泉州・開元寺の甘露戒壇。福建省泉州市鯉城区新華北路。
- 戒台寺、北京市門頭溝区。戒壇寺ともいう。
- 昭慶寺、浙江省杭州市西湖区。

（Web『神殿大観』より）

3）**浄土法学**：浄土宗の教理

4）**瑞雲**：仏教などで、めでたい兆しとして出現する、紫色や五色の珍しい雲。　（Weblio辞書より）

5）**その絵は国宝**：国宝・法然上人絵伝（知恩院蔵/複数の書き手による48巻。全巻伝の成立は1237年という）に含まれる。（白雲山東林寺のHPより）

6）**棗寺**：東京浅草の運行寺。なつめ寺は通称。
（複数ネット調べ）

国際交流員として2004年から2年間、青森県に来日した鄧仁有さん。その後帰国され、山西省太原市にある旅游学院の日本語ガイド養成コースで教鞭をとられています。わんりぃ誌上で鄧さんが執筆した日本語ガイド資格試験用テキストから、山西省の名所旧跡をご紹介してきましたが、このシリーズは今回で終わります。

白鳥（上）

絵と文＝佐藤 紀子（張恰申）
校閲＝佐藤香林

白鳥と私（創作ノート）

およそ20年前、私は中国から山形県酒田市に移住しました。

酒田市の最上川河口には、年間何千羽もの白鳥が、越冬するために、シベリアから飛んで来ます。冬の酒田市の空に、白鳥たちが飛び回っている姿がよく見えます。

私は、冬の早朝、最上川河口へ白鳥を見に行きます。最上川河口には何千羽の白鳥が空に飛び出して、酒田市郊外の水田に、稲の粒があるところに飛んでいきます。時には、私の脇から飛び出す白鳥もいました。そのため、私は白鳥の美しい姿がよく観察できました。その美しさに感動して、私は、白鳥の生態を調べてみました。白鳥は夫婦の絆が大変強く、家族の結束も優れていることがわかりました。

私は、虐待やネグレクトといった家族をめぐる痛ましいニュースを見聞きするたびに、白鳥の親子、夫婦、白鳥の家族のことを思い出します。家庭は、おとなの落ち着くところであり、子供の成長するところでもあります。理想的な家庭のありかたは、家族の幸せでしょう。それが《白鳥》を描く最初の動機でした。

私はその後、東京町田に転居しました。描き始めた《白鳥》は完成するまで、約二年間かかりました。二年間の間に、白鳥飛来地の酒田を何度も訪れ、酒田の友人や日本語担当の先生と相談しました。特に日本語担当の先生が、具体的なアドバイスをしてくれることもありました。ある年の冬に酒田へ行った時、吹雪の日でも酒田の友人と先生に、暖かく迎えられ、私に作品を完成する勇気を与えてくれました。《白鳥》の制作を通して、私は、友情、人情、協力、努力、目標を達成するの喜びも覚えました。

《白鳥》を制作するにあたっては、温和、責任、勇気、温もりが伝わるように、エピソードから、絵の色使い、文の言葉使いに気を付けました。言葉たらずの部分もありますが、読者のご賢察に期待しております。

佐藤紀子（張恰申）

❶
はるが　やってきました。
はくちょうの鵬君と雪ちゃんは
ふうふになったばかりです。
なかよく三しゅうかんも、
とびつづけました。
そうして、あさひのさすなか、
ふるさとのシベリアに
かえってきました。

春天来了。
白天鹅鹏君和雪姬
正在度蜜月。
蜜月中肩并肩地
飞翔了三个星期。
飞回了晨曦中的
故乡西伯利亚

❷
鵬君と雪ちゃんはふるさと、
シベリアのかわのきしに
おりたちました。
このとき、よろこびで
むねがいっぱいなりました。
それは、
ここが二人のふうふのいえに
なるからです。

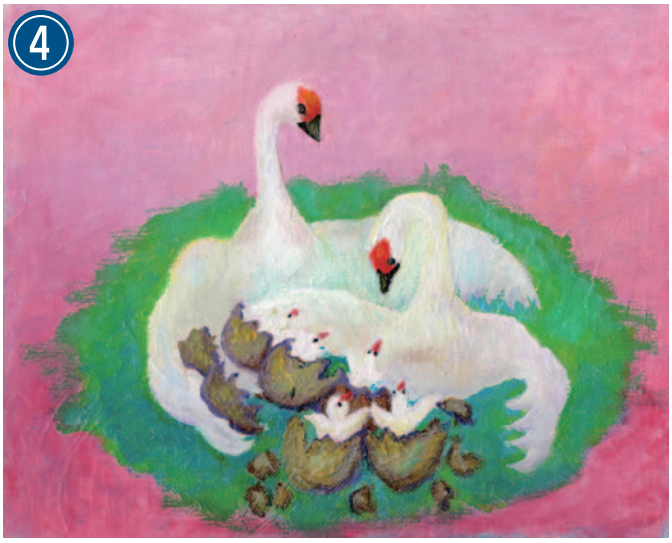
这是多么
愉快的时刻。
它们飞落在故乡的
河里。
这里是他们新婚夫
妇的家。

❸
雪ちゃんは 五つのたまごを
うみました。
雪ちゃんは ひるもよるも
たまごをだいて
あたためます。
鵬君は それを あたたかく
みまもっています。

雪姬生了五个蛋。
不管是白天还是黑夜，
雪姬总是用翅膀暖着
它们。
鹏君为它们站岗

❹
ひるとよるがくりかえし、
三十日がすぎました。
すると、たまごのからをわっ
て、五羽のちいさなはくちょ
うのひなどりが、うまれたで
はありませんか！
鵬君はパパになり、雪ちゃん
は ママになったのです。

三十天后，
五只小天鹅
啄破了蛋壳，
它们出世了。
鹏君做了爸爸，
雪姬做了妈妈



❺
ひるには、パパとママが、こど
もたちをはさむようにして
かわにはいり、およぎをおしえ
ます。
こどもたちは くちぐちにいい
ました、「わー、つめたい！
でもこわくはないよ。パパとマ
ママがいるから。」

白天，爸爸妈妈教
孩子游泳。
"水好凉！”孩子们
一起喊道，
"可是，左边有爸爸，
右边有妈妈，我们
不怕。”

以下次号

スリランカ紀行⑥

トリンコマリー・フェイス

松林蓉子

スリランカのゴールデンビーチは、内戦終結後は安心して行けるトリンコマリーエリアだとタランガッレ・ソーマシリ師がいわれていた。最近、マスコミが東海岸を紹介するようになり、トリンコマリーの魅力の数々が一般の人に知られ始めた。2009年、26年に亘ったスリランカ内戦状態が最終的に終了して以来、この地の観光産業の可能性が群を抜いて注目されている。恐らくトリンコマリーは、今後のスリランカの経済発展に大きな力になっていく予感がする。

トリンコマリーの表情

タミル・イスラムの解放の虎（LTTE）による内戦が終わった。そして、スリランカの海洋風景の無垢な美しさが人々の目を引くようになったが、実は、『東方見聞録』のマルコポーロや『三大陸周遊記』のイブン・バトゥータらの、歴史を紐解くキーパーソンが共に感動した島である。また、ある時代には良港を備えもった湾岸都市は、諸外国の交易の足場として逆に目を付けられて支配下に置かれてきた。第二次世界大戦中には英国海軍基地として使用された為、日本軍は空襲を行い、コロンボとトリンコマリーに被害を与えた。

日本敗戦後のサンフランシスコ講和会議において戦勝国である連合軍は、日本に対して厳しい賠償と制裁措置を求めた。

コネスヴァラム寺院　（Googleパノラミオから）

当時のスリランカ代表・ジャヤワルダナ大統領の演説は『法句経』[注)]の仏陀の言葉『憎悪は憎悪によって消え去るものではなく、ただ愛によってのみ、消え去るものである』を引用して演説し、その流れを変えた。スリランカの仏の声が連合国の考えを動かしたといえる。

2013年10月中旬、「今こそ行き時」とばかり、私たちはスリランカの東海岸をドライブした。

運転を引き受けて下さったソーマシリ師の友人が「内戦により外国人の立ち入りが制限されていたので、綺麗な砂浜が残っていたんです。ところが、あのスマトラ大地震の大津波がトリンコマリーに押し寄せました。実は、あの日、この海岸のホテルの2階に泊まっていたんです。1階にいた人は波に呑まれたり、流されてなくなりました。あっという間の出来事でした」と詳しく話してくださった。スリランカ全域に及んだ津波被害だが、特にトリンコマリーは大きかった。「2009年5月に、日本企業で建設したTUNAMIハウスがありますが、日本の建て方がしっかりしてしていて評判がいいです」とも言われた。

そんな傷跡を忘れたかのように波は純白、海は透明感のある紺色で見事な対照を見せていた。長く続くベージュ色の砂浜を歩いてみた。汚れのないビーチの美しさに溜息が出た。

ヒンドゥ教の彩り

素朴さを残す小規模なゲストハウスが並んでいる通りから一歩横に入った通りは発展途上に見える。車の中から周辺を見まわしているとタミル人の行列に出合った。何処とはなく賑々しく派手派手しい彩である。小さな町村のお祭らしく、カラフルな飾りを付けた車を囲んで歩くのはタミル人である。太鼓や吹奏楽器が鳴り響き、神様が神輿に載せられて巡回して行く。

ヒンドゥ教の神々は、現世の願い事を叶えてくれると信じられている。仏教寺院には必ずと言っていいほど祀られていてスリランカの人々の生活にも密接に絡んでいる。

雨が小降りになった時、駐車場らしいところに車を置いてぬかるみの参道を歩いた。お土産物、供物などを売る店もそろそろ店じまいであった。タミル人の露店に並ぶ食品はどんなんものが売られているのだろうときょろきょろしながら見て回った。「コネスヴァラム寺院」入口で素足になった。寺院の説明によれば、スリランカには2000年も前からヒンドゥ教寺院が五つあったそうで、その中の一つがトリンコマリー聖地にあるこの寺で、通称「千の柱寺院」と呼び、南インドから来たチョーラ朝やパンディ朝、パラツヴァ朝等により祀られていたがポルトガルにより壊されてしまったという。その後、海に沈んでいた柱や市街に埋められていたご神体を集めて再建され、目前の形になった。彫り物や飾り物はインドのヒンドゥ寺院とは少し異なりスリランカ風に見える。寺の外を回ると海が一面に広がって爽快な気分になった。まだお参りの人も残っていて、この場所はタミル人の憩い処であると思う。

忘れられた仏跡で

2000年あまりの歴史がある仏教遺跡に向かった。その遺跡は歴史とともに密林の中に埋没してしまったとソーマシリ師から聞いた。碑文によれば起源はアヌーラタブラのデーワナンビヤ・ティッサ王による菩提樹の植樹である。その後タミルの王を含む歴代の王たちにより建築され、再建されたてきた。11世紀にシンハラ王朝の衰退時にこの地域に住んでいた仏教徒は南に追いやられて、とうとう遺跡は埋もれて忘れられてしまった。「おや？」と思うことは、タミル人の王も仏教に心入れをされて仏教保持に努めたということである。ということは、シンハラ人、タミル人を問わずスリランカ人の精神の底流には「仏教」があるといえよう。

トリンコマリー海岸　（Googleパノラミオから）

遺跡のかたわらには寺院と菩提樹があった。タミル人がこのあたりの人を襲撃し、破滅に近い打撃を与えた。タミル人のこのテロから辛うじて完璧な破壊を免れていた仏教遺跡を甦らせたのであろうか。仏塔や石柱、足元に見る彫刻など王朝ごとの遺跡を見渡しながら、遺跡脇に建つ寺の住職にお目に掛った。ご自身も腹部を刺され九死に一生を得たとのこと。大きな傷痕を拝見し、その惨さを痛々しく思った。食事の布施を行う檀家もなく、ご自分で料理をされる寺生活とのことである。逃げたタミル人が置き忘れたビデオを来訪者に見て貰うとともに、その悲惨さを写真パネルにして展示し、再建のための寄付を募られていた。

青々と茂る草木の中の遺跡群や展示会場となっている寺院。身を以て体験したテロの恐怖を伝え、併せて仏の教えの大切さを訴える住職が眩しく見えた。この住職の姿から、何時の時代でもスリランカでは仏教思想が国民を支え、仏教思想が未来への希望をつなげていると確信できた。

■注

『**法句経**』（ほっくぎょう）：または『ダンマパダ』（パーリー語：Dhammapada）は、原始仏典の一つで、釈迦の指針的な語録の形式を取った経典である。語義は「法（真理）についての句（言葉）」といった意味であり、原始仏典の中では最もポピュラーな経典の一つである。

（ウィキペディア）

フイリピン滞在記 ⑪---天皇・皇后両陛下のフィリピン訪問を通して思うこと

為我井輝忠

「わんりぃ」3月号の原稿の締め切りが近づいてきて、はて、今回は何を書こうかと迷ってしまった。5月の大統領選挙のことなどが多少興味あるテーマとして思い浮かんだ。しかし、旧正月については昨年寄稿したし、大統領選挙については5月号にと考えているので、今回は天皇・皇后両陛下のご訪問について書いてみたいと思う。

両陛下がフィリピンを訪問されたのは1月26日から30日までであった。今回のご訪問の最大の目的は太平洋戦争で亡くなられた方々を慰霊するために「比島戦没者の碑」があるガリラヤを訪ねることと、日比国交正常化60周年記念の国賓としての招待に応えての訪問であった。両陛下のフィリピン訪問は皇太子時代の1962年にもあり、実に54年振りであった。現地の新聞やテレビなどでの報道は見る限り全面的に好意的で、かつての日本や日本人に対する悪意のある報道などは全くなかった。戦後70年を経て、時代の流れは大きく変わってきたと実感した。

私のレポートはすべてフィリピンで報道された新聞やテレビでの情報を基にしていて、日本の報道から得たものはあまり多くないことをまず述べておきたい。

30日の到着以来、連日様々な行事や式典に出席されて、大きな親善を果たされてきた。参考に、おおよその公式日程を紹介したい。

両陛下がこのようなタイトな日程を難なくこなし、無事日比間の親善に務められたことは大いに慶することである。大統領晩餐会において、天皇陛下は「貴国の国内において日米両国間の峻烈な戦闘が行われ(略)貴国の多くの人々が命を失い、傷つきました。このことは、私ども日本人が決して忘れてはならないことであり、この度の訪問においても、私どもはこのことを深く心に置き、旅の日々を過ごすつもりです」と述べられたが、今回のご訪問のメッセージはこれに凝縮されているように思える。

太平洋戦争においてフィリピンでは約51万8千人の日本人が亡くなった。外地では最大の数である。この悲惨な戦争について、日本では多くの記録が残され、小説や映画にもなった。数多くの慰霊碑がフィリピン国内に作られた。しかし、フィリピン側の犠牲者について思いを寄せたり、悔悟を示した例は非常に少ない。フィリピン側の死者は111万人にも及んだ。当時の国民の16人に一人の割合で、ロムス元外相は「人口に比してアジア最大の惨禍を受けた国」と語っている。

今回の旅行は「巡礼の旅」という印象が強いが、フィリピン人戦死者が祀られている無名戦士の墓への訪問や国籍未取得者を含む多数の日系人との懇談も天皇ご自身が望んだものだと伝えられている。

日本側の報道ではほとんど知られていないが(わずかに『週刊朝日』が取り上げていた)、昨年11月30日に到着した陛下の荷物が12月2日に税関の手によって開けられ、検査を受けたという報道がフィリピン側のマスコミをにぎわせた。

特に在住日本人の間でひとしきり話題となったが、これは外交関係に関するウイーン条約では、「外交封印袋は開きまたは留置することもできない」と規定されているからである。このような事態が起き、関わった職員は厳重な注意を受けたという。宮内庁はこの件については「承知していません。宮内庁から送った荷物はありません」との答えであった。日本側としてはせっかくの訪問に水を差したくないとの判断があったのかもしれない。

以上が私がフィリピンで見聞きした天皇・皇后両陛下の同国での旅行に関する情報である。

日付('16.1月)		公　式　日　程
27日	午前	マラカニアン宮殿で歓迎式典、リサール記念碑に献花
	午後	英雄墓地で献花し、フイリピン側戦没者を慰霊 夜、大統領主催の晩餐会
28日	午前	フィリピン人元留学生、日系人、在留邦人と懇談
	午後	フィリピン人看護師候補生が学ぶ語学研修センター訪問 夜、日本大使夫妻主催のレセプション
29日	午前	ガラリヤへ日本人戦没者慰霊碑訪問
	午後	ロスバニョスにある国際稲研究所視察
30日	午前	日本へ帰国

◇‘わんりぃ’活動報告

留学生とチゲ鍋で交流しよう会

於：まちだ中央公民館・調理室　2016年1月17日(日)

今年2016年新年を迎えたときはストーブも要らないような暖かさだったが、それでも冬は冬だ。留学生たちと交流を考えるなら心も体もほっこり温かくなる鍋料理がよいのではと選んだ韓国のチゲ鍋。‘わんりぃ’会員と関係者17名、留学生7名、日本人学生3名の計27名が4つの鍋を楽しんだ。

本来なら、‘わんりぃ’メンバーがお膳立てをして留学生たちをお迎えするところなのだが、この日は丁度「中国語で読む漢詩の会」が、町田中央公民館での開催日で、交流会参加予定の皆さんの大半が講座に出席していた。そんな訳で鍋の準備から参加できたのは、‘わんりぃ’メンバーが5、6人と留学生たちと日本人学生たちで、若い世代が結構な量の鍋材料を材料ごとに分担して用意した。主・客入れ替わったような準備だったが、準備する間にいろいろお話もできてこのような形も悪くないように思った。

準備完了の11：30、漢詩の講座に出席された方たちが連れ立って会場にいらっしゃって早速チゲ鍋を開始。漢詩の会講師の植田渥雄先生も参加。加えて、「人民中国」出版社・元東京支局長であり、中国に帰られてからは同社の社長を務められたという于明新さんがたまたま春節で横浜のお嬢さん宅に来日しており‘わんりぃ’メンバーの杣野一さんの招きで参加された。

若者に囲まれた植田先生は楽しそうに留学生たちとお話ししながらチゲ鍋を召し上がり、于明新さんも‘わんりぃ’メンバーたちと留学生たちの和やかな交流風景をにこやかにご覧くださっていらっしゃるようだった。

たっぷりチゲ鍋を頂いた後は、ゲーム感覚で自己紹介し、韓国人留学生のウ・ジソンさんの指導でアリランを韓国語と日本語で歌い、続けて中国人留学生の皆さん達と一緒に、中国江南地方の民謡「茉莉花」を中国語で歌った。最後は「幸せなら手を叩こう！」を、テーブルを囲んだ大きな輪になって歌った。　（報告：田井　写真撮影：崔貞）

参加者一同、輪になって「幸せなら手を叩こう！」を歌った

◇'わんりぃ'活動報告

2016 新年会・シュワンヤンロウで新年を祝おう！

於：麻生市民館・調理室　2016年2月7日(日)11:00～14:30

'わんりぃ' 恒例の新年会「羊肉のしゃぶしゃぶ（シュワンヤンロウ）で新年を祝おう！」が、2016年2月7日、京劇俳優・殷秋瑞（インチュウルイ）さんによる、京劇風「新年好！」の挨拶で開始した。

今年も昨年同様、新年会が春節時期（今年は大晦日）と重なり、'わんりぃ' 関係の中国出身の皆さんは中国からの来客を迎えたり、国へ帰られたりで参加できない方も多かったが、殷秋瑞さん他、満柏画伯とイラストレーター・ イエリンさんご夫妻や四川音楽大学教授の呉万新・ 趙鳳英先生ご夫妻が一家をあげてご参加された。その他、絵本作家として活動開始の張怡申さん、NPOチベット初等教育基金会理事長を務めるかたわら中国奥地の写真撮影で活躍の烏里烏沙（ウリウサ）さん、中国人留学生の戴沢宇さんと夏燕雪さん、昨年晴れて日本の会社に就職の戚さん、キルギス人ケレザさん、フランス人サミラさん、秩父山西省友好記念館館長・ 神林直樹さん、「ボイストレの会」講師・Emme先生等 'わんりぃ' に関わりのある皆様に加えて、「留学生との交流会」にご参加の「人民中国」元社長・ 于明新（イ・ミンシン）さん、世界華人写真家連盟副会長・ 馮学敏（フォンシュミン）さんが参加された。

于明新さんと馮学敏さんは元々の知り合いで、何と 'わんりぃ' 新年会が機縁で20年ぶりの再会だったとのことだった。

初めて参加の皆さんも、羊肉のしゃぶしゃぶに舌鼓を打っている間に打ち解けて話しもはずみ、用意のラム肉12kg、野菜もお豆腐も殆どなくなるころは参加者一同すっかり満腹。心も体も満ち足りて今年一年元気に過ごせそうな気分になられたのでは？

「北国の春」を指導の趙先生

さて思う存分しゃぶしゃぶを頂いた後は、余興タイム。今年は、ボイストレのEmme先生と「中国語で歌おう会」の趙鳳英先生お二人のご参加で、Emme先生にはボイストレ体験のご指導を、趙鳳英先生には中国語「北国の春」のご指導を、というプログラム。

「お腹いっぱいの時は、ボイストレには向かないけれど」とおっしゃりながら、いつもながらの元気あふれるEmme先生。続いて鳳英先生による中国語「北国の春」は、先生に続いて全員で一節ずつ区切って読み、また歌い、最後は一緒に気持ち良く歌った。

続いて恒例のビンゴと 'わんりぃ' 新年会「お笑い福引」。福引ではとんでもないものを引き当てて笑って、その後は、永瀬征博さんが馬頭琴で「万馬の轟」を演奏、1月末に桜美林大学孔子学院で開催された「漢詩朗読会」で見事特別賞を獲得の高鳥正子さんが漢詩朗読。

盛りだくさんの2016年新年会は、今年は 'わんりぃ' 川崎支部長の山田賀世さんの手締めの音頭で無事に終わった。　（報告：田井 写真：河本　崔貞）

ジャブシャブのお鍋を囲んで和気あいあいと交流

Emme 先生と一緒のボイストレ風景

来る！果敢（guǒ gǎn）！—フランスで大活躍の二胡演奏家・果敢が初来日！

4月8日／成城ホールで開催の、果敢さんのコンサートに寄せて

［黒田真子（崔貞）］

私が九州の西南学院大学に留学していた1995年、夏休みを利用して故郷・瀋陽に帰りました。私の実家は瀋陽音楽学院のすぐ近くにありましたので構内を散歩したり、学院内で開催のコンサートに参加したりしていました。そんな折に学院関連施設で短期二胡講座があることを知り申し込みました。

その講座の二胡の先生は果敢さんといい、瀋陽で生れ、お父様である著名な二胡演奏家・果俊明（中国音楽家協会二胡学会副会長／瀋陽音楽学院民楽学部長及び教授）の指導を受けて成長された方で、1995年当時は遼寧省歌舞団の打楽器と二胡の演奏者として歌舞団で大活躍の実力の持ち主でした。私は、同世代という事もあり二胡の指導を頂いた後も、果敢さんと折に触れてメールで連絡を取りあっておりました。

その果敢さんがこの度、初来日し、小田急沿線の成城ホールで演奏されるとのことです。私は果敢さんの来日公演が嬉しく、出来るだけ応援したいと思い、4月の演奏会に向けてのPRを今一生懸命しています。

ところで皆さん、皆さんも「果敢って本名でしょうか」と思われますか。実は、チラシを差し上げて演奏会を紹介する度にこのような質問をされます。果敢は中国語ではとても響きがきれいな名前ですが、日本語でも「勇猛果敢な」といえばきっぱりとした決断力のある様子を表していますね。果敢さんはその名の通り、2000年に単身でフランスに渡り、フランス国立高等音楽院で打楽器を専攻し修士課程を終了しました。その後パリ在住のまま、二胡で世界中の異なる分野のアーティストや交響楽団と共に世界70か国で2000回を超える公演をし、彼の演奏を収録したCDも50枚を超えています。この枚挙のいとまない活躍によって、昨年フランス政府文化部より芸術文化勲章を授与されました。これは二胡演奏家としても中国民族音楽家としても世界では初めての受賞です。

演奏会はきっとその素晴らしい感動を与えてくれると確信しています。‘わんりぃ’の皆様にも是非お聴き頂きたく、ご参加をご検討頂ければ有難く存じます。

二胡リサイタル2016 果敢（グオガン） GUO GAN

フランスで活躍中の二胡演奏家・果敢が初来日！
中国古来の悠久の音色の世界へのいざない

▲出　演：果敢（二胡）
▲2016年4月8日（金）
Guest：戴茜（古筝）Tomomi（二胡）
19：00開演（18：00開場）
▲成城ホール（多目的ホール）
（世田谷区成城6-2-1）
https://seijohall.jp/index.html
●参加費：4,000円
（当日：4,500円）全席自由
●果敢オフィシャルHP：http://www.guogan.fr/
◆問合せ ＆ 申込：☎080-5460-8710（崔貞）
E-MAIL: jane_syjp@yahoo.co.jp
◆主催：Guo Gan ErHu Club/Dai Qian.info

◇わんりぃの催し

中国語で読む・漢詩の会

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩の素晴らしさを味わおう!!

▲3月の講座：6日（日）▲4月の講座：17日（日）
▲場所：まちだ中央公民館 第3・4学習室
▲時間：10：00～11：30
▲講師：植田渥雄先生
（現桜美林大学孔子学院講師）

▲会費：1500円（会場使用料・講師謝礼など）
▲定員：20名（原則として）
＊録音機をお持ちの方はご持参下さい。

◆申込み：☎090-1425-0472（寺西）
E-mail: ukiuki65@yahoo.co.jp（有為楠）

◇わんりぃの催し

ボイストレーニングをして日本の歌を美しく歌おう！

あなたも私も笑顔が美しくなる！ 身体の力を抜いて、気持よく発声しよう!!

▲3月の講座：22日（火）　まちだ中央公民館・視聴覚室
▲4月の講座：26日（火）　まちだ中央公民館・音楽室Ⅰ
▲時間　10：00～11：30
★動きやすい服装でご参加ください

●練習曲：「ひとつの種」
●講師：Emme（エメ）（歌手）
●会費：1500円（会場使用料・講師謝礼など）
●定員：15名（原則として）
◆申込み：☎042-735-7187（鈴木）
E-mail：wanli@jcom.home.ne.jp（わんりぃ）

作ってみよう！味わってみよう！'わんりぃ'料理の会

アルジェリア風ランチを楽しもう！

町田市民フォーラム３Ｆ・調理実習室（195-0014 町田市原町田4-9-8）

2016年3月13日（日）　10：30～14：00（予定）

▲定員：先着15名（どなたでも参加できます）
▲参加費：1500円（会場費・材料費・講師代）※留学生は無料です
▲持物：エプロン、筆記用具、保存容器

【当日の予定メニュウ】アルジェリア風ひよこ豆のシチュウ/セモリナ粉で作るもっちりパン/アルジェリアンケーキ（アーモンドプードル100%のケーキ）コーヒー付

◆申込：メール：wanli@jcom.home.ne.jp　TEL/FAX：042-734-5100（わんりぃ）

「これってアート？なぜ？」

～とても難解な現代アートを
満柏先生が分かり易く解説！～

フランス料理を食べて、先生と一緒に目下、横浜美術館で開催中の「村上隆のスーパーフラット・コレクション展」を見よう！ http://yokohama.art.museum/exhibition/index/20160130-457.html

※上記展覧会は今話題の
「村上隆の五百羅漢展」
（森美術館六本木ヒルズ53F）
と同時開催中です。

3月20日（日）11：30～

YSC SPACE & CAFE（ワイエスシー スペース アンド カフェ）
横浜市西区桜木町4-21-1 YSC横浜ビル1F

● **参加費**：5000円（料理代と横浜美術館入館料）
先着30名限定

● **問合せ&申込み**：045-664-3789（満）

中国リアリズムの煌めき

http://www.jcfc.or.jp/blog/archives/7421

中国第12回全国美術展受賞優秀作品による「現代中国の美術」

● **日中友好会館美術館**
〒112-0004 文京区後楽1-5-3　☎03-3815-5085

● **2016年2月25日（木）～4月10日（日）**
前期：2月25日～3月14日　後期：3月16日～4月10日
10:00～17:00（初日15:00開会式）火曜日休館

▲会期中何度でも入場可能なパスポート券
一般：400円　大高生200円　中学生以下無料

主催：（公財）日中友好会館・中国美術家協会・毎日新聞社

【会期中の催し】
ミュージアムミニコンサート
無料・予約不要（要展覧会観覧券）
3月27日（日）14時～（約40分）
中国古箏とピアノの共演

◆問合せ：☎03-3815-5085
日中友好会館美術館

日中八都市八人書画篆刻展

▲会場：**大田区民ホール・アプリコ**
http://www.city.ota.tokyo.jp/shisetsu/aprico/
大田区蒲田5-37-3 蒲田駅徒歩5分

▲会期・時間：3月1日（火）～6日（日）
9:30~18:00（初日13:00～）

【出品者】
李銀山（名古屋）、馬景泉（東京）、姚明（福岡）、郭文志（邯鄲）、姜末（大連）、牛刀*（太原）、畢伝国（宿遷）、蔡子君（臨沂）
＊牛刀氏は何媛媛さんの大学同級生です。

●会期中13:00～実演・好きな文字を一文字書いて進呈します。

▲主催：**日中古墨書法家協会**
■問合せ：☎090-6761-3826（李）

'わんりぃ' 209号の主な目次

北京雑感101 古観象台 ……2
論語断片⑭一を聞いて以て十を知る ……3
媛媛讲故事（82）「ケチな黄生」……4
元寇と鷹島（5）……6
混迷の時代を開くザメンホフの人類主義 ……8
東西文明の比較（2）……10
詩人尹世霖（いんせりん）の童詩の世界⑳「新任先生」……12
諺・慣用句（47）「老いたる馬は路を忘れず」……13
鄧さんの観光ガイド⑨「玄中寺」……14
絵本「白鳥」……16
スリランカ紀行⑥「トリンコマリー・フェイス」…18
フィリピン滞在記⑪天皇・皇后両陛下のフィリピン訪問 …20
活動報告「留学生とチゲ鍋で交流しよう」……21
活動報告「2016'わんりぃ'新年会」……22
'わんりぃ' 掲示板……23・34

2016年3月定例会/4月号おたより発送日

◆場所：三輪センター・第三会議室
◆3月定例会：3月15日（火）13:30～
◆4月号のおたより発送日：3月31日（月）10：30～
★おたより発送日は、お弁当をご持参ください
●問合せ：☎042-734-5100